

## 荒川昭夫, 真鍋淑郎両氏の米国気象学会賞受賞について

去る1月, アメリカ気象学会の発表したところによれば, 1977年度の Carl-Gustaf Rossby Medal が UCLA の荒川昭夫教授に, また Second Half Century Award が GFDL の真鍋淑郎博士にそれぞれ授与されることとなった。この2つの賞は, アメリカ気象学会の数々の賞のうちでも最高の名誉あるものであり, これらの賞が日本気象学会々員でもある両氏にさづけられたことは, 当学会としても同慶の念にたえない。

両氏の学問的業績については, 夙に我が国においても良く知られているところであるが, 今回米国気象学会事務局より送付された資料にもとづいて, 両氏のプロフィールを以下に紹介しよう。

荒川昭夫氏は, 1950年東京大学理学部物理学科を卒業後気象庁に入り, 1965年以降 UCLA (カリフォルニア大学ロスアンゼルス分校) の気象学教室に移り, 1969年からその教授職にある。その間, 1963年には日本気象学会賞を, また1967年には, 米国気象学会の Meisinger Award を授与されている。

今回の授賞の対象となった業績は, “大気の大規模予

測モデルに境界層, および対流雲の効果を取入れる物理的かつ現実的な方法の定式化, および種々の数値計算法の発展に寄与した功績”である。

真鍋淑郎氏の受賞は, “大気の力学 および 物理過程の数値シミュレーションを通じて, 放射が気候に及ぼす影響の理解を深めた功績”によるものである。博士は1958年東京大学大学院卒業後直ちに GFDL (地球流体力学研究所, 当時ワシントン, 現在プリンストン) に入り, 以後今日に至るまで主として大気大循環モデルの開発を進める傍ら, GARP をはじめ種々の国内・国際委員会の主要なメンバーとして活躍を続けている。その間, 1966年の日本気象学会藤原賞をはじめ, 米国気象学会 Meisinger 賞 (1967), 米商務省ゴールドメダル (1970), NOAA の環境研究所賞 (1974), 同じく NOAA の科学研究賞 (1976) など数多くの栄誉に輝いている。

ここに両博士の受賞を祝福し, あわせて今後益々御活躍されることを期待したい。

(日本気象学会 天気編集委員会)